

平成26年におけるリンドウ黒斑病の発生特徴と診断のポイント

- ①平成26年の発生特徴：6月が高温で経過したことにより、県南部では6月上旬に初発生した。また平年発生が見られない県北部でも6月下旬から発生が認められた。
- ②診断のポイント：圃場全体を観察し、特定の株に局在せず、広く発生していることを確認し、中位～上位葉の葉先ではない葉身部に現れる直径1cm程度の輪紋状の病斑を観察する。

1 背景

近年、県内でリンドウ黒斑病の発生が問題となっているが、その中には生理的要因等によると見られる類似症状が含まれ、両者の区別が困難なことが診断・防除の障害となっている。そのため、診断する際のポイントを整理するとともに、本年の発生特徴をまとめた。

2 黒斑病の病徴

はじめ直径5mm程度の病斑が現れ、その後、輪紋状に拡大する。診断には直径1cm程度のものが適する。病勢ステージ別の特徴は以下のとおり。

- ①発病初期（写真1 a～c）：病斑は直径5mm程度で、内部が淡褐色、外部が褐色の小斑点である。
- ②発病中期（写真1 d～f）：直径1cm程度で、明瞭な輪紋を形成する。病斑は葉脈に区切られることがある（写真1 d）ほか、葉の生育時に葉縁部に形成された病斑では葉がよれることがある（写真1 f）。
- ③発病後期（写真1 g・h）：輪紋がくすみ、降雨等により病斑中心部に穴が生じることがある（写真1 h）。

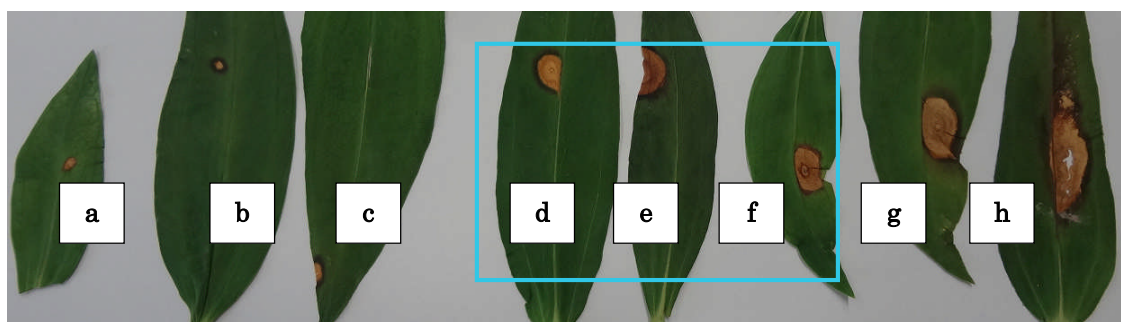


写真1 病徴の進展の様子(ジョバンニ)

3 平成26年の発生特徴

- ①発生時期：本年は、気温が高く経過した6月頃から一関市の一部の圃場で初発生が見られ、八幡平市でも6月下旬から発生が見られた。7月以降県内で広く発生し、一部では出荷不能となる場合もあった（表1）。
- ②発生品種：発生は品種間差、圃場間差が大きく、発生時期や程度に差が見られるものの、主に「ジョバンニ」で発生し、被害が大きい圃場も散見された（表1）。

表1 県内における黒斑病の発生状況(平成26年度 各普及センター調べ)

| 地域 | 発生時期 | 品種 | 備考 |
|------|-------|--------------------------|------------------|
| 一関市 | 6月上旬～ | ジョバンニ | ジョバンニの一部圃場で出荷不能。 |
| 八幡平市 | 6月下旬～ | 安代の秋、安代の晩秋、安代の初秋、安代の夏 | 8月上旬以降、発生が増加。 |
| 久慈市 | 7月上旬～ | ジョバンニ、アルピレオ、イーハトーヴォ、マジエル | 一部圃場で8月下旬に発生が急増。 |
| 奥州市 | 7月中旬～ | ジョバンニ、イーハトーヴォ、いわて夢みのり | ジョバンニの一部圃場で出荷不能。 |
| 宮古市 | 8月上旬～ | ジョバンニ | 8月上旬以降、発生が増加。 |
| 盛岡市 | 8月下旬～ | ジョバンニ、いわて夢みのり | |
| 雫石町 | 8月下旬～ | ジョバンニ、いわて夢みのり | ジョバンニの一部圃場で出荷不能。 |

4 黒斑病の診断フロー



写真2 葉の輪紋状斑点

①圃場全体を観察する (写真2)

- ・罹病葉が特定の株に局在しておらず、圃場内に広く発生している。

はい

②罹病株を観察する (写真2、3)

- ・中位葉～上位葉に症状が見られる。
- ・葉先ではない葉身部に病斑が見られる。

はい

③直径1cm程度の病斑を観察する (写真3～5)

- ・内部は淡褐色、外部が褐色の輪紋状である。
- ・病斑には黒褐色の孢子塊が見える。

いいえ

いいえ

いいえ

はい

生理障害・

他病害の疑い

(葉枯病、褐斑病等)

黒斑病



写真3 輪紋状の病斑

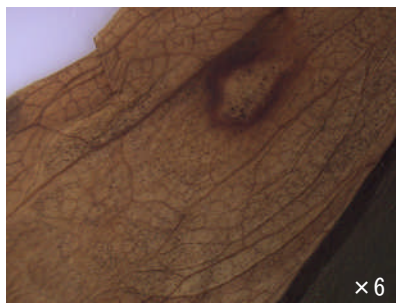


写真4 葉表の孢子塊

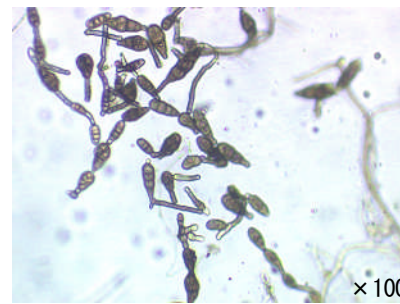


写真5 病原菌 (*Alternaria alternata*)

他病害の疑いのある場合

黒斑病と診断できなかった病害については、病害虫防除所に診断を依頼する。

5 防除対策

- (1) 発病適温は 20～25℃で、8月から9月にかけて発生が増加するが、気温が高い場合は早期から発生するので、「ジョバンニ」など発病しやすい品種を観察し、発生が見られた場合は本病に効果のある薬剤を散布する。
- (2) 発病葉、被害残渣は伝染源となるので、圃場外に持ち出し、焼却するなど適切に処分する。
- (3) 株仕立てを行い、通風を良くする。

<参考>

平成14年度試験研究成果書「りんどうの新病害“黒斑病”の発生状況」
平成17年度試験研究成果書「リンドウ黒斑病の発生特徴と防除対策」

事業名: 植物防疫事業